

## 安芸高田市ふるさと応援の会

ふるさと応援の会は、安芸高田市の魅力を全国に広め、安芸高田市をもっともっと元気にしたいという思いで結成しました。安芸高田市のご出身の方やゆかりのある方、市内に住んでいる方、安芸高田市に関心がある方であれば、どなたでも参加いただける会員組織です。いろいろな応援方法で、みなさんと一緒に安芸高田市を盛り上げていきましょう。



### 応援の会に入会すると

ふるさと応援の会が開催する安芸高田市の魅力を発掘するイベントに参加できます！

安芸高田市の魅力を全国に情報発信してPRにご協力いただける方はみんなの投稿から発信することができます。

安芸高田市に魅力を感じ応援したい仲間と一緒に交流することができます。

会員募集中



### チケット購入方法

安芸高田市ふるさと応援の会事務局まで  
電話・FAX・メール又は、下記QRコードより申込フォームにアクセスください。



申込フォーム

★お申込締切★ 令和8年5月29日（金）

TEL : 0826-47-4024 / FAX : 0826-42-1003

Email : shokan@city.akitakata.jp

※FAX・メールでお申込みの場合は、付属のチケット購入申込書をご利用ください。

※未就学児は無料（膝上鑑賞）

※全席自由席

※【事前申込みの方】料金は当日、12:00より、会場受付にてお支払いいただき、チケットをお渡しいたします。チケット販売「事前申込みの方」の列にお並びください。

※当日券は12:45～販売開始いたします。「当日券」の列にお並びください。

## 安芸高田市ふるさと応援の会



# ひろしま 安芸高田神楽

出演

羽佐竹神楽団

演目

「滝夜叉姫」「八岐大蛇」

時間

13:00 開場 / 14:00 開演

全席自由席

料金

一般 2,000円 / 会員 1,000円 / ※未就学児は無料（膝上鑑賞）

2026.

6/7日

JMSアステールプラザ

中ホール 〈広島市中区加古町4-17〉

【主催】安芸高田市ふるさと応援の会

【共催】安芸高田市・安芸高田市教育委員会

【協力】安芸高田神楽協議会・安芸高田市商工会(申請中)・安芸高田研究会

【後援】広島市・中国新聞社・中国放送・広島テレビ・広島ホームテレビ・テレビ新広島

一 演 目 目

滝夜叉姫

たきやしやひめ

平安時代の中頃、平将門(たいらのまさかど)は、坂東国(ばんどうのくに) (北関東)で『西の国に「天皇」があるなら、東の国で「新皇」となり、豊かな国造りをする』と宣言します。

しかし、朝廷に弓引く者に違いなく「天慶(てんぎょう)の乱」で藤原秀郷(ふじわらのひでさと)・平貞盛(たいらのさだもり)の軍に敗れ去ります。

一族で生き残った将門の娘・五月姫(さつきひめ)は、父の怨念を晴らす為、貴船(きふね)の社(やしろ)に願掛(がんか)けし、満願(まんがん)と共に貴船の神より妖術を授かります。五月姫は、名を「滝夜叉姫(たきやしやひめ)」と改め、父の因縁の郷、下総国(しもうさのくに) (・相馬(そうま)の地に立ち戻り、多くの手下を従えて反乱を企てます。陰陽師(おんみょうし)・大宅中将光圀(おおやちゅうじょうみつくに)らは、姫征伐の朝命(ちやうめい)を奉じ、下総国へと向かいます。陰陽の術と邪心の妖術の激しい戦いとなりますが、滝夜叉姫の朝廷に対する復讐は成らず、無残に敗れ去っていく。



羽佐竹神楽団

羽佐竹神楽団は、江戸期より先人、先輩たちによって舞い継がれ、昭和47年地域全戸(130戸)を会員として、羽佐竹神楽後援会を創立し、昭和54年、広島県無形民俗文化財の指定を受け、平成3年には、羽佐竹子ども神楽団を結成し、子ども達に地域の伝統文化の学習と神楽後継者の育成に努めております。歴史と伝統の有る羽佐竹神楽の灯を消すまいと、日々研鑽を続けています。

本イベントは、多くの企業様のご協賛・ご支援のもと開催しております。地域・活動を支えてくださる皆様に、心より御礼申し上げます。

- 医療法人社団 八千代会 | 株式会社 ガレージ・ケイアンドケイ | 株式会社 島根産業 | 医療法人せのがわ 瀬野川病院
- 株式会社 ユニサス | 医療法人ピーアイエー ナカムラ病院 | 株式会社 フジタ 広島本店
- 広島駅弁当 株式会社 | 医療法人 あかね会 | 株式会社 サニクリーン中国 | 株式会社 ミズキコンプライアンス | 山根木材リモデリング 株式会社
- サービス付き高齢者賃貸住宅「吉田楽々苑」 | 安芸高田神楽協議会 | 株式会社 神楽門前湯治村 | 楽のりレンタカー 安芸高田店
- 株式会社 栗本 | 西尾レントオール | 株式会社 大州営業所 | 株式会社 三宅

※順不同

二 演 目 目

八岐大蛇

やまたのおろち

高天原(たかまがはら)を追われた素戔嗚尊(すさのおのみこと)は出雲(いずも)の国簸(ひ)の川上流で、足名椎(あしなづち)、手名椎(てなづち)の老長者夫婦(ろうちょうじゃふうふ)と娘の奇稲田姫(くしなだひめ)に出合った。夫婦は、八人もいた娘が7年の間に7人も八岐大蛇(やまたのおろち)に呑み取られ、今年、この最後の娘も大蛇に襲われると嘆き悲しみ、尊(みこと)に助けを求めてきた。その大蛇(おろち)は頭が八つ尾が八本、長さは八つの谷をまたぐという。

そこで、尊(みこと)は八塩折(やしおお)りの樽酒(たるざけ)を用意させて大蛇を待った。やがて現れた大蛇に酒を吞ませ酔って眠ったところを襲いかかり激しい闘いののちついに退治する。そのとき尾から出た一振の名剣に天村雲剣(あまのむらくものつるぎ)と名付け高天原(たかまがはら)の天照大神(あまてらすおおみかみ)へ献上した。

